

## オオゾウムシ

澄川森林でミズナラの丸太を蒔の寸法にチェーンソーで玉切りをしていましたら材の中から大きなゾウムシが這い出してきました。掴まえてシラカバの白い肌をバックにして取り敢えずデジカメで撮影しておきました。いつものように帰宅して調べましてオオゾウムシと同定しました。撮影日時は 2015 年 7 月 16 日 11 時 36 分でした。



ゾウムシは甲虫目で口吻が長く突き出ている、象を連想させることでの命名です。日本在来種の仲間内でオオゾウムシは最大なのです。体長は 13~24mm とかなり個体差があります。この固体は 15mm ほどでした。分布は日本全国、地球規模では東南アジアから東アジアまでとかなり広い。

幼虫は針葉樹、広葉樹と幅広く食すのですが、なかでもドングリを稔らせる樹種を好み、生木ではなく朽木でもない木材の中でカミキリ虫の幼虫に似て、木質材そのものを食べて育つのです。7~8 月に成虫が現れ、カブトムシやクワガタムシ同様に樹液にも寄ります。九州の昆虫少年時代でもお目にかかったことがないので、なまら嬉しい出会いでありました。



コクゾウムシをご存知でしょうか？ 我がボラ仲間世代はご飯を炊くお米を食べる害虫として駆除させられた記憶が蘇ります。米粒より気持ち小さいゾウムシの仲間ですが、昔はどここの家庭の米櫃にも侵入していました。近年は絶滅させられた気配で見かけたことはありません。ゾウムシもいろいろなのであります。

前々日までは気温 30℃超えの猛暑日でしたが、前日からこの日までは気温が快適で汗だくにならずに作業ができました。蒔割りは斧による人力ではなく、女子でも出来る機械式の蒔き割機でこなしました。

三橋さんに花の名前を問われました。作業場の近くに咲いていました。ユリ科の花で以前に「蝶ランプ」で描いた花であることは分かりましたが、名前を思いだせません。これも帰宅して確認しました。エゾスカシユリでした。クマイザサの中にただ1輪だけ咲いていました。赤味の濃い美しい花でした。これまで 13 年もここ澄川森林の中を歩きまわっていますが、初めて見かけた花でした。鳥が種を運んでくれたと思うのですが、いかなるメカニズムが働いているのかまっこと不思議でありました。

